



LAZONA^{ラゾーナ} 藤尾歴史散歩

藤尾学区まちづくり協議会 歴史文化部会



第16回 藤尾発祥の日本の名産・お土産

<その③>

大津算盤(そろばん)は、日本で最も早くに算盤製造をはじめたと言われています。慶長17年(1612年)に長崎奉行に赴任した長谷川藤広に大谷の片岡庄兵衛と一緒に赴き、算盤の製法を伝授されて大津に帰り今一里町(大谷)で算盤の製造を始めたのが「大津算盤」のはじまりです。(現在のそろばんと違って、上に玉が二つあります。)以来、幕府の勘定方の御用を務め、大谷周辺に算盤製造の家が軒を並べ、大津の特産品として知られることになりました。



●「大津算盤」追分一里塚前 木屋安兵衛作
(井筒八ツ橋本舗追分店提供)

材質は、珠がツゲ・ヒイラギ・ウメ、枠がカシ・カキ・黒檀・紫檀、桁の軸には丈夫な細竹が使用されていました。また、枠や梁の裏側(底部)には、作者の居住地と名前が木版印刷された和紙が貼られているものが多いそうです。

●大津算盤 制作道具
(大津百町ガイドブックより)



『大津算盤』上ニツ玉、下五ツ玉。中国式算盤を改良



●『大津算盤発祥の地』の案内(現 大谷町)

安政元年(1854年)の記録では、17軒の業者があったとされ、片岡庄兵衛とともに美濃屋理兵衛を名乗った小島庄兵衛も慶長年間(1624年~1644年)に創業して名を残しています。江戸中期には、大津算盤は全国にその名を知られており、大坂の医師寺島良安が30年をかけて完成した江戸期最大の百科事典『和漢三才図会』(1712年ごろ成立)にも、『大津算盤』が特筆されており、幕末まで隆盛ぶりは続いていました。

LAZONA(ラゾーナ)の第10回の蝉丸神社でもお名前をお借りしましたが、大谷町の楠井喜代治氏宅には、自費で建てられた『大津算盤発祥の地』の案内があります。(文・松井佐彦)

バックナンバーご希望はコミュニティセンターまで

